

成・壽

SEIJU

2010年
第41卷

春考号

善吉祥天

沙野
三善
三善







■ 特
集

成寿山善光寺
三世大莞博志住職晋山結制
大圓武志大和尚七回忌法要

平成二十二年十一月二十七日・二十八日

首座入寺式



首座（修行僧のリーダー）という、結制修行の重要な役選ばれた僧の任命式
（首座 黒田賢志師）



知客（案内役の僧侶）に連れられ、聖僧（文殊菩薩）様に焼香礼拝をし、僧堂内にいる大勢の僧侶に挨拶をして廻ります

土地堂念誦



結制修行の無事と檀信徒の皆様の繁栄を祈り仏法の護り神、土地護伽藍神に蜜湯とお茶を捧げます

湯献忌住先



七回忌前晩のご法要 焼香師（導師）正翁寺住職 篁 素明老師

配役本則行茶



結制修行される僧侶の配役を発表する式
本則（修行のテーマ）を提唱される光真寺住職 黒田俊雄老師

安下処



安下処（あんげしょ）とは寺に入る前に住職が身支度を整える処
鳥居秀行総代宅を安下処として、ご尊家のご先祖様に感謝報恩のお経を手向けます
これよりいよいよ出発です

晋山・稚児行列



早朝より天童に扮したかわいらしいお稚児さんたちが新命住職を先導して参道を練り歩きます

晋山・稚児行列



100メートルを超える行列。みんな和やかにお寺へと歩みます
お寺に着くとお稚児さんは無事育成・身体健全を祈念して洒水（しゃすい）を受けます

晋山式

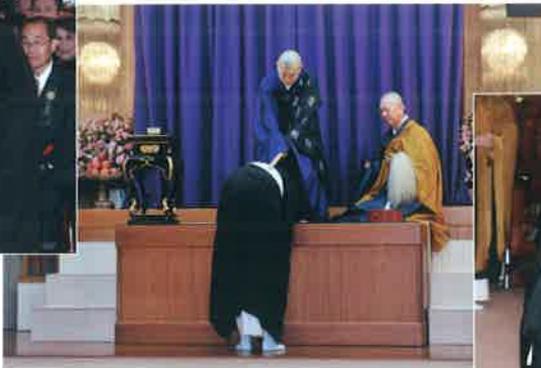


角塔婆の建つ山門で法語を述べ太鼓の音と共に本堂へと進む



御開山さまから伝わるお袈裟（伝衣）をかけて、ご本尊さま、土地神、達磨大師、御開山さまにそれぞれ法語を述べ就任の挨拶を致します

結制（晋山）上堂



新命博志住職が須彌壇の上に登り法語を述べ焼香します。
お釈迦さま、御開山さま、ご縁の方への報恩の誠を尽くし、世界の安心・平和・幸福、
仏道の興隆、檀信徒各家の繁栄を祈念します。
続いて大勢の僧侶と禅問答を展開



嗣承香（しじょうこう） 師父に対し万感の思いを述べて焼香致します
嗣承香焚いて泣かざるは仏子にあらず……



西堂（白槲師・びゃくついでし）黒田 俊雄老師
先住の法をしっかりと継いだ新命の力量を認めこの上堂を証明致します

首座法戦式



住職に代わり仏法を説くことを許された首座 賢志上座が弾けるような声で修行僧と問
答を戦わせます



先代方丈さまの肖像画は実弟 黒田能勝先生によるものです



先住七回忌献供諷經



焼香師（導師）大乘寺山主東隆眞老師

法語

單刀直入至誠人

忍苦多年轉願輪

七回春秋既過去

如今佛看旧時身

恭惟相值

当山二世中興善光寺留学僧育英会創設者

初代理事長大圓武志老大和尚休広忌之辰

拙僧

大練忌之辰焼香云

与老大和尚 結兄弟之契五十年

友情丹心 猶在眼

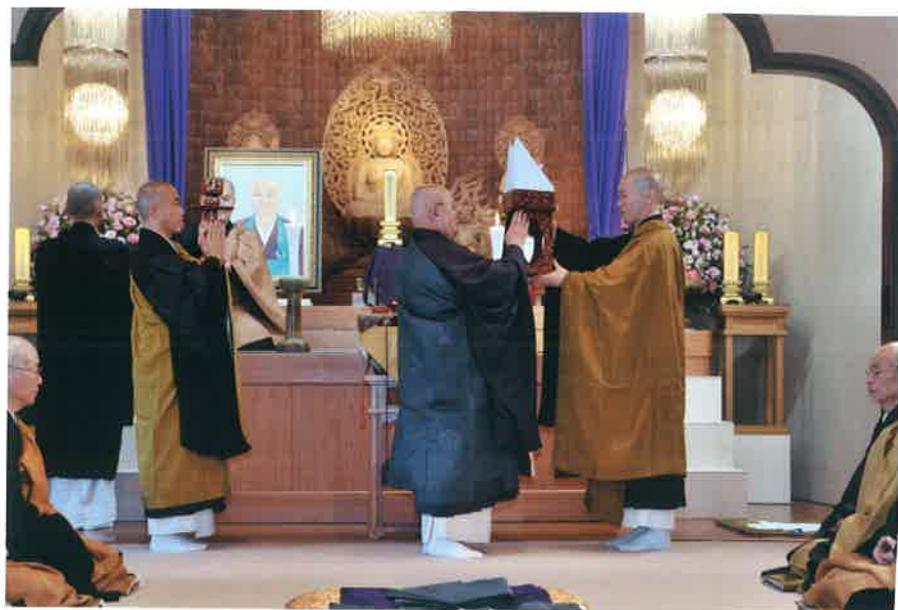
朗朗大声 今残耳

現在然

扱 老大和尚者

修兩本山僧堂 投身泰米国道場

開創善光禅苑 宣揚一仏兩祖宗



檀信歸崇教化 門徒一萬絕比倫

遺弟博志老和尚 受遺命寺門興隆

可謂

正伝仏法弥昌 尽未來際久転

正与麼時 応供底一句

如何指陳

唵

拈華瞬目 露堂堂

破顏微笑 明歴歴

尚亭

維時 平成二十二年十一月二十八日

加賀 東香山大乘寺七十二世

焼香比丘 天籟隆眞拜書

釈迦殿一階（客殿）



本堂に入りきれない程大勢の方にお参り頂きました

大駐車場



大駐車場に大きなテントを張りモニターを見ながらゆっくりとお参りして頂きました



参詣頂いた多くの方々のご焼香

大般若祈祷法要



檀信徒各家のご先祖様のご供養と共に身代不動明王さまに皆様の益々のご健康・家門の繁栄をご祈念致します



横浜駅 崎陽軒にて祝宴設齋





祝宴には先代方丈さまの在りし日の映像がながされ、先代様からも『ありがとうございました』と感謝の声が会場内に響き渡りました。

